

「サルシカの隊長ですに。」
 そんな三重弁の一言からサルシカ
 がはじまったのは、8年まえのこ
 と。
 私が三重県津市美里町の山あいの
 集落に家族と移住をしてきた翌年。
 当時小学校1年だった娘がもう中学
 2年。いやあ歳月の流れは早いも
 んです。



発行所
 三重県地方自治研究センター
 三重県津市栄町2丁目361番地
 (一助)三重県地方自治労働文化センター内
 TEL059-227-3298
 FAX059-227-3116
<http://www.mie-jichiken.jp/>
info@mie-jichiken.jp

さて、改めまして、サルシカの隊長、奥田です。

三重テレビ放送の『とつてもワクドキ』水曜日のコメントーターをしてるので、「いつも司会のお姉さん」にいられてるバカなオッサン」といった方がわかっていただけるかも知れませんが(笑)。が、私はこう見えても特定非営利活動法人サルシカの代表理事なのであります。



サルシカ秘密基地の目印です。

サルシカとは？

「サルシカ？ 害獣をとつつかまえるグループか」
 と思われた方もいるかも知れないので説明しておきましょう。
 われわれは、三重県をもっとゲンキにしよう、という目的で活動をしている非営利組織で、3つの事業をやっています。

三重であそぶ・ふれあう。

くらす「サルシカ」

ひとつは、ウェブサイト「サルシカ」(<http://www.salshika.com/>)

三重で「あそぶ」「ふれあう」「くらす」をテーマに、愉快な三重県での田舎暮らしを紹介しています。

このサイトの目的は、ざぱり移住促進のための情報発信。都市部に暮らしながらも田舎暮らしを夢見る人たちに、まずは三重県を知ってもらって遊びにきてもらい、三重県の人とふれあってもらい、そしてあわよくば三重県で暮らしってもらう、という戦略(笑)。

そのためにわれわれは三重の山里での暮らしを存分に楽しみ、うつくしい海や川でワハハハハと気持ちよく笑っているのです。

具体的にはツリーハウスをつくったり、大人のための秘密基地をつくったり、イカダレースに出てみたり、ママチャリで鈴鹿サーキットを8時間走ったり、意味もなく大勢でキャンプしたり、夜な夜な宴会したり。



紀北町の筏レースに参戦！



ペットボトルで、死闘！イカダレース！

まわりからは「ただ遊んでるだけやないか」と言われていますが、

誤解です。決してそうではありません！(笑)責任と使命を勝手に背負って「三重でわれわれはこんなに愉快に暮らしているぞ、三重って楽しいぞ！」ってアピールしているんです。



みんなの力で、ツリーハウスが完成！

中でも心がけているのは、顔が見える情報発信。

ほら、産直市場へいくと、「私がこの野菜を丹精込めてつくりました！」って畑でニカニカと笑っている生産者の写真が貼ってあったりするでしょ。生産者を明らかにすることによって安心と安全をアピールしているわけですが、われわれは安心安全で、信用ができる(と思われる)情報を全国に発信しようと思がけています。

三重の広報支援サイト「ゲンキ3ネット」

もうひとつ「ゲンキ3ネット」(<http://genki3.net/>)というウェブサイトも運営しています。

三重県には地域をゲンキにしようとかんがっているグループや個人の方がたくさんいます。私は自分が関わっているテレビ番組を通じてそういうみなさんとお会いさせていたたく機会が多いのですが、みなさんからよく聞くのが、「自分たちの活動のPRのやり方がわからない、苦手だ」という話。

せっかく素晴らしい活動をしているのに、広報ができずに人が集まらず、苦しんでいるところが多い。もったいない話ですよ。

で、サルシカで得たノウハウとアクセス数を利用して、われわれが情報発信のお手伝いをしよう、とはじめたのがゲンキ3ネットです。

テレビ番組2つ、ラジオ番組1つ、フリーペーパーとも連動し、現在700を超えるグループや地域の情報を日々発信しています。

毎月更新している情報量は380件から400件。毎日10件以上のお知らせを発信していることになります。

ちなみにサルシカとゲンキ3ネットを合わせた月間のページビューは、軽く100万PVを越えます。

ふるさとをゲンキに！

『美里プロジェクト』

サルシカは情報発信のベースとなるメディアであり、ゲンキ3ネットは三重県各地でがんばる人たちをつなぐネットワークです。この2つ事業から、われわれは「メディア」と「地域活性化のノウハウ」を得ることができました。

この2つの力を活用して、はじめたのが3つめの事業「美里プロジェクト」です。

特定非営利活動法人サルシカの理事の大半は、三重県津市美里町の出身です。

津市から車でわずか20分から30分のところですが、過疎高齢化が急激に進んでいる地域です。

その美里町で、われわれが持てる力を最大限活用し、そしてみずから汗をかいて地域活性化活動をやっているというものです。

具体的には、緊急雇用の助成金を活用して2人のスタッフを雇用し、休耕地や耕作放棄地で米作り、野菜作りを地域のみなさんとはじめています。



秘密基地を拠点に活動しています。

また美里町の平木地区に建造した、サルシカの拠点「サルシカ秘密基地」では、地域住民を対象としたコミュニティカフェ「やまびこカフェ」を月に1回オープン。人口100人弱の集落にもかかわらず、毎回そ

の半数以上の人に参加していただいています。

他にも、年末恒例の餅つき大会や、米の収穫祭など、地域外の人をお招きするイベントを月に1度ぐらいの割合で開催しています。美里町の中でも一番端っこの、伊賀との市境にある集落ですが、毎回100名近い人に参加いただいています。名前にその秘密基地ですが（笑）、われわれの拠点は、地域のみなさんのコミュニティスペースとして、そして地域外との交流スペースとして活用していただいています。



黒豆収穫祭！

こうして書く、「サルシカつてのはしっかりと計画を立てて、それに沿ってモノゴトを進めているのだから」と思いますよね。

でも断じて違います（笑）。たまにたまこうなっただけです。

ここからは、3つめの事業「美里プロジェクト」の、地域の方々との取り組みを中心に話を進めていきたいと思います。

秘密基地で

「村のよりあい」を復活！

まず拠点の「サルシカ秘密基地」について。

実は最初から今のような半ばパブリックな開かれた空間にするつもりはありませんでした。サルシカのメンバーが集い、酒でも飲みながら打ち合わせが出来る場所を想定していたのです。だから秘密基地と名づけたわけですね。

ところが、あるとき、地域の人と公開でディスカッションをする機会があり、そこで地域の人がこういうことを言ったのです。

「昔は寄り合いという湯のみ茶碗で酒を飲んで、みんなでケンケンガクガクやったもんや。かしこいまま集落の役員も町に暮らす人がやるようになって車で来るから酒も飲めん。村が弱体化してきたのはそういう酒を飲みかわす昔ながらの『村のよりあい』がなくなってきたからや…」

その時、なるほど、と思ったのです。サルシカも酒を飲みながらみんなワイワイやりながら活動内容を決めていて、ワイと盛り上がりつつ進める、そんな勢いが原動力でしたから。

で、その時も勢いで秘密基地をオープンする、と決めてしまった（笑）。そして建造がはじまったわけです。

地域との交流は

すではじまっていた…

とはいえ資金がない。まさか秘密

基地をつくってもいいぞうなんていう補助金があるとも思えず、仕方ないからみんなで作ろうか、と(笑)。まあ、しかし世の中なんとかなるもんです。

ウェブサイトのサルシカを通じて秘密基地をつくってくれる人を募集したら、ノーギャラにも関わらず来るわ来るわ。遠くは山形、東京、愛知県、奈良、大阪、岡山からも。もちろん県内、地域内の人ときれて、なんと200人をこえる人へ手伝ってもらい、2年の歳月をかけて完成しました。



大勢のサルシカ隊員の手で、秘密基地が完成!

で、いざイベントをはじめよう、地域内外の人との交流の場を設けていこうと思ったとき、ふと気づいたのです。実はもう交流は始まっていたのです。秘密基地をつくるためにみんなで汗を流し、工事が終わったあとはみんなで乾杯をする、それこそが交流の場であったのです。今でも、基地づくりを手伝ってくれた人はみんな特別な思いでイベン

トに参加してくれます。しかも友人や仲間を誘って応援してくれます。そして夜、地域の人も含めて宴会をするときは、工事の時の苦労話に話を咲かせながら酒を飲み交わしています。

みんなで作ったからこそ、交流が生まれ、今の雰囲気と環境が生まれたのです。

でもそれは狙ったわけじゃなく、偶然の産物です。



大賑わいの秘密基地オープニングイベント

**何をやりたいか、
ではなく、何をやるべきか**

思ってもいなかったことは他にもありました。

秘密基地で開催するイベントに、地域の高齢者の方、そして若い女性の参加者が予想以上に多かったことです。

山あいにある秘密基地ですから、喜び勇んでやってくるのは、少年の

心を忘れないオッサンたちが中心だろうと思っていたら、見事に予想が外れました。

手作りの石窯でピザやパンを焼くと、ご近所のじいちゃんばあちゃんたちが集まってくる。普段なかなか食べられないから、もつともつとパンを焼いてくれ、焼き立てパンを食べさせてくれ、と。



石窯も手づくり! あ、私が隊長の奥田です。

すると今度は若い女性たちが「天然酵母でパンを焼きたい!」「石窯でパンを焼いてみたい!」と集まってくる。

うれしい悲鳴でしたが、そもそも秘密基地は女性や高齢者にやさしい造りになっていない。で、慌ててトイレを洋式の水洗に変更し、キッチンまでつくり、バリアフリーとはいえないまでも段差を減らす工事を実施しました。

そして、地域のみなさんの要望に応じてスタートしたのが、コミュニティカフェの「やまびこカフェ」なのです。



やまびこカフェ。集落のみなさんの交流が深まります。

「次から次へといろんなことを考えますねえ」

なんて取材を受けるたびに言われるけれど、実は周囲の声に従っただけなんです。

主体性がないと言われるかも知れないけれど、実際にそうなんだから仕方がない(笑)。

ただ今になって思うのは、自分たちが「何をやりたいか」ではなく、地域の人たちが「何を求めているか」ということをたまたま偶然にも優先できたのがよかったのかなあ、と。主体性がなくて本当によかったと思っています(笑)。

**今だから言える重要な
2つのキーワード**

そもそものが偶然の産物なのでえらそうには言えないのですが、われわれサルシカがたまたま(笑) 得た重要なこと、地域といっしょに取り組んでいく上で大事なことです。

それを改めて言う、次の2つ。

「みんなでつくりあげる」

与えられたり、つくってもらうのではなく、みんなで場をつくる。同じ釜の飯を食い、汗を流し、同じ体験と思いを共有する。

「自分たちが何をやりたいか、ではなく、地域が何を求めているかを考える」

地域活性化の活動やボランティアは「やるのがまず大事！」とよく言われます。確かにアクションを起こすことは大事。でも地域のニーズも考えずにやりたいことをやっていたらただの自己満足でしなくなってしまう。

当たり前といえど、当たり前前のことですし、このグルーブの活動にも当てはまるものではないかも知れませんが、でもサルシカはこの2つのことを常に頭において活動をしています。

農業とカフェ、これからの活動

前述しましたが、サルシカは休耕地や耕作放棄地を活用して米づくり、野菜づくりをはじめます。

とはいえ、われわれサルシカのスタッフの中に農業従事者がいるわけではありません。これまでクワすら持ったことがない素人ばかり。

今は地域で農業をやっているお父さんお母さんたちに先生になってもらって野菜作りの基本を学んでいる状態です。

ある程度身についたところで、そのスタッフたちが地域外へ出て、害獣に強い農作物や商品価値の高い作

物づくりを学び、そして今度は地域でお父さんお母さんたちといっしょに新しい農作物をつくっていくこう、そんな計画になっています。

つまり農業においても、秘密基地建造の共同作業で学んだ「みんなでつくりあげる！」という基本を守ってやっていくつもりです。

もちろん高齢化のためにもう田畑がつかれない、草刈りも大変だという地域の声がまずあってスタートした事業でもあります。

今後はわれわれメンバーだけでなく、いろんな人に米や野菜づくりに



サルシカ米をつくれ! 2013



農家に指導してもらいながら田んぼづくり



田植え機の運転も大騒ぎ!(笑)

参加してもらえるように環境を整えていきたいと思っています。同時にわれわれが準備しているのが、カフェのオープンです。

地域のコミュニティカフェはすでにスタートさせていますが、今後は広く一般開放するカフェの準備をしています。

そのカフェでは、われわれサルシカのスタッフと地域のみなさんが作った野菜をふんだんに使ったメニューを出す予定です。作った人の顔が見えるどころか、すぐそばで実際につくっている、そんな究極の地産地消で、安心して食べていただけるカフェにできたらと思っています。

そして野菜を生産する地域の人には、少しでも対価を還元したいと考えています。しかし小さなカフェで仕入れ販売する野菜の量なんてたかが知れています。金額にすれば微々たるものになるはず。そこで、野菜の代金で支払うのではなく、コミュニティカフェや一般開放の食事代にできるクーポンを発行しようと計画しています。

地域の小さなコミュニティみんなので野菜をつくり、そのわずかながらの収益でコミュニティカフェをみんなで楽しむ。小さいながらも笑顔が溢れる好循環を生み出せないかと夢見ています。

夢の村をつくらう!!

軽いタッチで楽しく書いていこうと思っていたのに、どんどん熱くなって柄にもなく本気モードで語っ

てしまいました。

言っときますけど、たまたまですからね。

しつこいですけど、ふらふらとまわりに流されただけですからね(笑)。そんなわれわれサルシカですが、いまサルシカ秘密基地で酒を飲みながら、ワーワー盛り上がりつつある話があります。

われわれはツリーハウスをつくった、秘密基地もつくった、その木になれば何でもつくれる! そうだ、村をまるごとつくらう!!

実物大は無理だから(笑)、小人たちが暮らす小さな村を。そこでは毎日バザールをやっている、賑やかで楽しい小さな小さな村を。

ね、面白そうでしょ、みんなでいっしょにつくりましょ!!!!



ひろ ひさ おく 田 裕 久

プロフィール

昭和40年生まれ、三重県津市出身。東京で漫画原作者、放送作家として活動後、ネット企業を設立。公開企業のグループ会社化と同時に、その親会社の代表取締役役に就任。2007年、スローライフを求めて家族と共に三重へ。現在、構成作家として、三重テレビ「ゲンキみえ! 生き活きレポート」などを担当。また同局の「とっともワクドキ」水曜日のコメンテーターとしても出演中。